桜島は昔から大噴火をくり返しています

記録に残っている大噴火

通常の噴火　山頂火口から噴火し、火山灰や噴石をふき出す。

大噴火　山の途中に複数の火口を作って大量の軽石や火山灰をふき出し、最後には溶岩が流れ出る。

奈良時代	天平宝字噴火（764年）	東側から軽石と火山灰がふき出し、溶岩が流れ出ました。
室町時代	文明噴火（1471年）	北東側と南西側から軽石と火山灰がふき出し、溶岩が流れ出ました。
江戸時代	安永噴火（1779年）	北東側と南側から軽石と火山灰がふき出し、溶岩が流れ出ました。 海底噴火により津波がおきました。
大正時代	大正噴火（1914年）	西側と東側から軽石と火山灰がふき出し、溶岩が流れ出て、大隅半島と陸続きになりました。

噴火で流れ出た溶岩

流れ出た溶岩で桜島は広がっています

大正噴火は、国内では20世紀最大の噴火と言われています。

どんなことが起こったのか次のページからマンガで見てみましょう。